

日本カメラ博物館 JCI ライブラリー  
学芸員 宮崎真二

宮部 甫 (1907-2005) は、1932年に東京帝国大学工学部造兵学科を卒業し、在学中より実験助手をつとめていた理化学研究所に入りました。同研究所では、エンジンのピストンリング製造機械など各種の機械設計に携わる傍ら、1935年ごろから技術者速成教育のために開設された「高等精密工学校」で設計製図および精密測定の講義を担当しました。

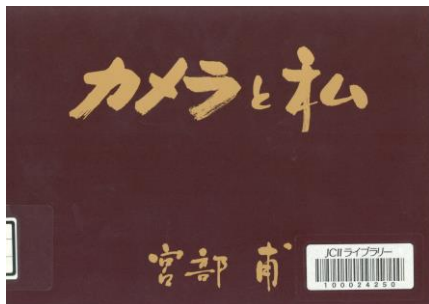
同研究所で学んだ生産工学を活用すべく、1942年に千代田光学精工(のちのミノルタ)へ移り、戦後は35ミリカメラ「ミノルタ35」を設計し、続いて「ミノルタメモ」、甲南カメラ研究所の西村雅貴が設計した極小型カメラ「ミカオートマツ」を量産に適した構造に改めた「コーナン16オートマツ」を手がけました。



『ミノックスとミニカメラ』

1951年にはマミヤ光機へ移籍し、警察向けに製造された「ピストルカメラ」(速写カメラ)、「マガジン35」、画面サイズ24×24ミリの「スケッチ」などを手がけました。1961年にマミヤを退社し、カメラ・光学機器の試作などを行う「宮部技術研究所」を設立します。このころの設計例として、ヤシカセクセルとフジカミニがあります。

1966年には、千葉工業大学工学部精密機械工学科の開設にあわせて教授に就任しました。1969年、JCIが歴史的カメラの選定収集事業を開始するにあたり、同委員に就任するとともに、『戦後日本カメラ発展史』(東興社・1971年)、『日本カメラの歴史』(毎日新聞社・1975年)を分担執筆しています。千葉工大定年後は1978年から1986年までJCIの技術顧問として、カメラコレクション台帳の作成や、英国カメラ史の調査に携わりました。また、日本機械デザインセンター(JMDC)の写真機関連審査人、審査長を20年つとめ、JIS、ISO関係の功績により1975年に藍綬褒章を授与されています。



『カメラと私』

宮部は「コーナン16オートマツ」に携わっていたころ極小型カメラ「ミノックス」と出会い、外観、構造、誕生経緯の謎などに深い興味を覚え、1969年に愛用者クラブ「日本ミノックスクラブ」の設立に携わるなど、終生ミノックスと取り組みました。関連して、『ミノックスとミニカメラ』(朝日ソノラマ・1978年、共著)、『ミニカメラの世界』(朝日ソノラマ・1983年)、『Ur.MINOXはAprès MINOXか?』(日本ミノックスクラブ・1999年)を著しています。

2000年には業界紙『カメラタイムズ』に連載した記事に、数編を追加してまとめた自叙伝『カメラと私』(日本ミノックスクラブ)を著しました。